

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 6 月 8 日	
所属部局・職	人類進化論研究室 修士課程 1 年
氏名	山口飛翔

<b>1. 派遣国・場所</b>	
日本、鹿児島県、屋久島	
<b>2. 研究課題名</b>	
屋久島フィールド実習への参加	
<b>3. 派遣期間</b>	
平成 30 年 5 月 19 日 ~ 平成 30 年 5 月 25 日 (7 日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b>	
京都大学霊長類研究所、半谷吾郎博士	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b>	
<p>屋久島フィールド実習に参加し、標高や人間の土地利用がニホンザル (<i>Macaca fuscata yakui</i>) の分布にどのような影響を与えているのかを調査した。</p> <p>5 月 20 日から 5 月 22 日の間、屋久島内の林道においてルートセンサスを行い、直接観察と糞や音声の検出によってニホンザルを発見した場所を GPS 上に記録した (図 1、図 2)。また、センサス中に発見した糞の内、比較的新しいものからはゲノム実習で使用するための DNA サンプルを収集した。</p> <p>5 月 23 日と 5 月 24 日には収集した GPS のデータを QGIS 上で分析し、一般化線形モデル (GLM) を用いて標高と人間の土地利用 (植林、農業)、村落からの距離がニホンザルの分布にどのような影響を与えているのかを調べた。分析の結果、ニホンザルは村落から遠い場所や植林の割合が高い場所で見つかる傾向が高いことが分かった。5 月 24 日の午後には、先生方や植物グループに対してこの結果を口頭発表した。分析は全て完了していないため、今月中に分析を完了し、6 月末にレポートとして提出する予定である。本実習は、筆者にとって初めての野生ニホンザル集団を対象とした研究であり、初めて GPS を利用した経験でもあった。また、日本人以外の学生と英語を用いて議論を交わしたのも初めての経験であり、本実習での経験が今後の研究生活において大いに役立つと確信している。</p>	
	
図 1. 屋久島の林道。大自然の中を歩けたことはとても良い経験になった。	図 2. 屋久島の林道。歩くのが大変な道もあった。

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

### 6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディング大学院プログラムの支援を受けて遂行することができました。この場を借りて御礼申し上げます。また、屋久島でお世話になった半谷吾郎准教授、沢田晶子研究員、栗原洋介研究員、本田剛章氏にも深く感謝申し上げます。